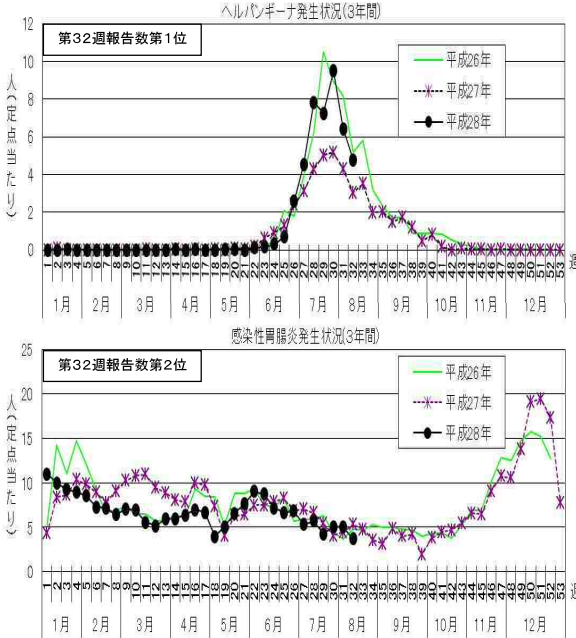


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成28年8月8日(月)～平成28年8月14日(日)【平成28年第32週】の感染症発生状況

第32週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)ヘルパンギーナ 2)感染性胃腸炎 3)流行性耳下腺炎でした。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は4.78人と前週(6.42人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.69人と前週(5.03人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 流行性耳下腺炎の定点当たり患者報告数は1.19人と前週(1.53人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



RSウイルス感染症～特に乳児は要注意！～

RSウイルス感染症は、「RSウイルス」を原因とする呼吸器疾患で、例年、秋から冬にかけて流行しますが、今年は過去5年間平均と比べ、夏場にも報告数が多くなっています。

初感染の場合、特に生後3か月以下の乳児、早産児、生後2か月以下で心臓・肺の基礎疾患を持つ小児等では重症化することがあります。

RSウイルス感染症の特徴

潜伏期間: 3～5日(平均4日間)
 感染経路: 咳や鼻水等による飛沫・接触感染
 症状: 発熱、咳、鼻水などの風邪様症状

予防のポイント

- 手洗いの徹底
- ドアノブ等の頻繁に触る場所は、こまめに消毒(消毒用アルコールや次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系の消毒剤)
- おもちゃは消毒後、必ず流水で洗浄
- 飛沫感染対策として大人はマスク着用

川崎市におけるRSウイルス感染症発生状況
—平成28年と過去5年間平均の比較—



ハイリスクの新生児・乳幼児に対しては、感染を予防する方法もありますので、医療機関で御相談ください。

川崎市 KAWASAKI CITY

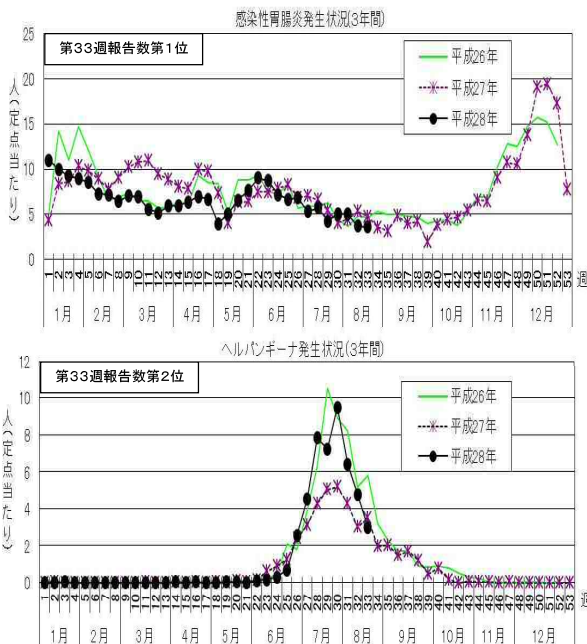
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成28年8月15日(月)～平成28年8月21日(日)【平成28年第33週】の感染症発生状況

第33週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)ヘルパンギーナ 3)流行性耳下腺炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.63人と前週(3.69人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は3.00人と前週(4.78人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 流行性耳下腺炎の定点当たり患者報告数は2.13人と前週(1.19人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



流行性耳下腺炎～全国的にも流行中～

平成27年秋頃から報告数の増加がみられている流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)は、第33週(平成28年8月15日～8月21日)に定点当たり報告数が2.13人となり、過去10年間で最多となりました。

区別では、川崎区と多摩区で多くっており、特に多摩区では定点あたり報告数が8.0人と警報基準値(6.0人)を超えました。

ウイルス感染

2～3週間後(平均18日間)

どんな症状?

唾液腺(両側あるいは片側)の突然の腫れ・痛み(耳下腺が多い)

発熱



全国、川崎市の流行性耳下腺炎発生状況
—平成28年と川崎市過去5年間平均の比較—



合併症: 基本的には軽症のまま治癒しますが、無菌性髄膜炎、難聴、精巣炎、卵巣炎などを発症することがあり、妊婦が感染すると自然流産することもあります。

川崎市 KAWASAKI CITY

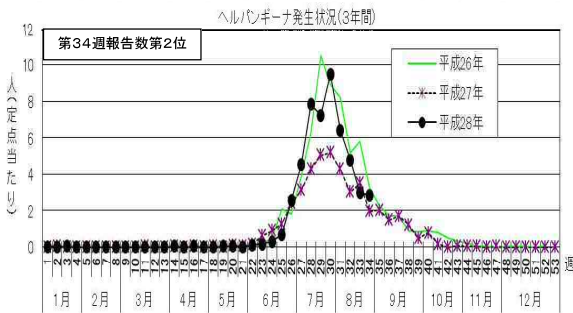
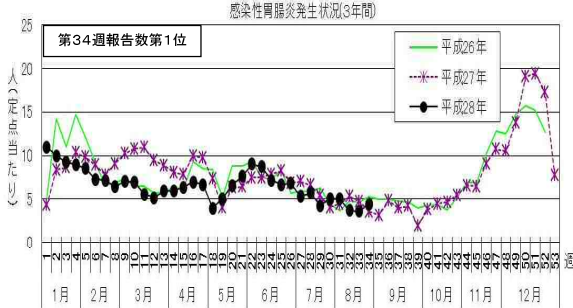
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成28年8月22日(月)～平成28年8月28日(日)【平成28年第34週】の感染症発生状況

第34週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) ヘルパンギーナ 3) 流行性耳下腺炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.44人と前週(3.63人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は2.82人と前週(3.00人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 流行性耳下腺炎の定点当たり患者報告数は1.26人と前週(2.13人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



麻しん(はしか)にご注意ください！！

現在、国内では東南アジアなど海外からの帰国者を中心に、麻しん患者が発生しています。非常に感染力が強いため、麻しんに対して免疫のない人が感染すると、ほぼ100%発病しますが、ワクチン接種により予防することが可能です。麻しん・風しん混合ワクチン(MRワクチン)の定期接種が済んでいないお子さんは、早めに接種を受けましょう。

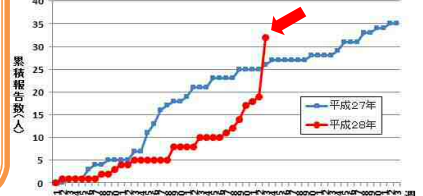
麻しん(はしか)ってどんな病気？

感染経路: 空気感染、飛沫感染、接触感染
潜伏期間: 10～12日(最長21日程度)
症状: 発熱、咳、鼻水など風邪様症状で始まり、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。
 ※肺炎や中耳炎を合併しやすく、脳炎など重篤な疾患を併発することもあります。
治療・予防: 対症療法による治療が中心で、ワクチンによる予防が最も効果的です。

定期予防接種対象者(無料で受けられる期間)

第1期 生後12月から生後24月に至るまでの間にある者
 第2期 小学校入学前の1年間(今年度は平成22年4月2日～平成23年4月1日生まれが対象)

全国における麻しん発生状況
 -平成27年と平成28年の累積報告数-



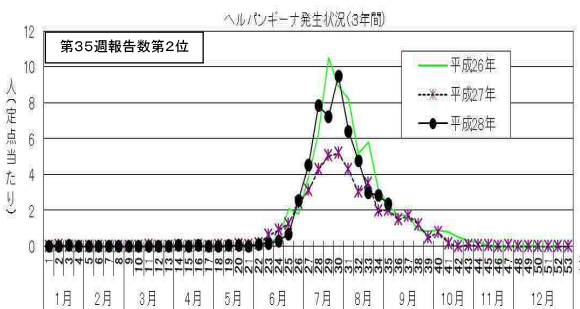
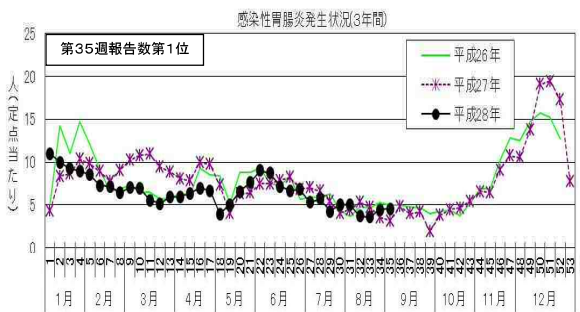
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成28年8月29日(月)～平成28年9月4日(日)【平成28年第35週】の感染症発生状況

第35週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) ヘルパンギーナ 3) 流行性角結膜炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.58人と前週(4.44人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は2.36人と前週(2.82人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.44人と前週(1.22人)から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。



帰国後の体調不良～こんな症状が出たら～

新学期が始まりました。海外旅行から帰国された方も多いかと思います。海外では、時差や気候など様々なストレスを受けるため、体調を崩しやすくなっています。帰国後に体調不良がみられた時は早めに医療機関を受診しましょう。なお、受診の際は症状だけでなく旅行先や旅行期間を必ず医師に伝えてください。

※国内では関西地方を中心に麻しん患者が急増しています。現在は海外渡航歴がない方にも感染がみられます。



発熱	止まらない下痢	発疹
発展途上国から帰国した人の2～3%に発熱がみられると言われています。 発熱の多くは、自然に治まることもありますが、マラリアなど急速に進行し、命に係わる場合もあります。	海外旅行へ行った人の半数以上が旅行先で下痢になります。 帰国後の止まらない下痢は、「寄生虫による感染症」、「消化器の病気」、「感染後の腸の過敏」などが考えられます。	・発熱に伴う発疹(デング熱、リケッチア感染症等) ・かゆみが強い発疹(疥癬等) ～医師へ伝えるポイント～ ◆旅行先での活動内容 ◆虫にさされたか ◆皮膚の異常がいつ、どのように起きたか



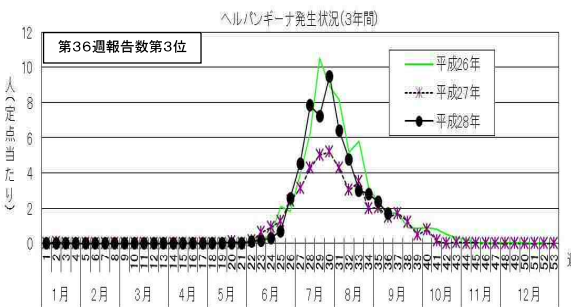
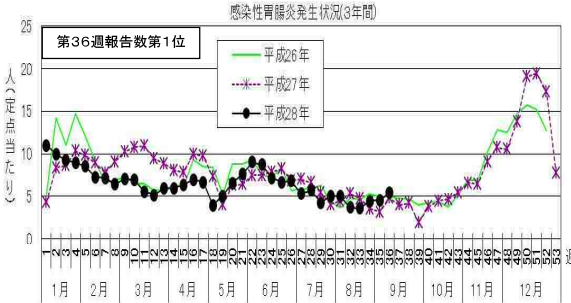
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成28年9月5日（月）～平成28年9月11日（日）【平成28年第36週】の感染症発生状況

第36週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) RSウイルス感染症 3) ヘルパンギーナでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.42人と前週（4.58人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.03人と前週（1.19人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は1.67人と前週（2.36人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



急増しています！！～RSウイルス感染症～

RSウイルス感染症は、例年、秋～冬にかけて流行がみられる呼吸器感染症です。今年は6月、7月にも報告がありましたが、第33週（平成28年8月15日～8月21日）以降急増し、第36週（平成28年9月5日～9月11日）には定点当たり報告数が2.03人となり、過去10年間で最多となりました。

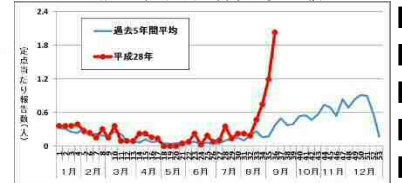
特に宮前区からの報告が多く、第36週は定点当たり6.67人でした。



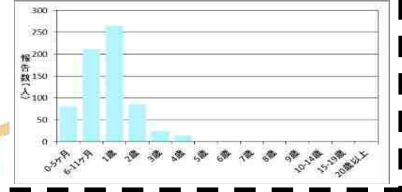
感染を拡げないために！！

- ・感染リスクが高いのは0～1歳児です。大人からの感染を防ぐために、咳などの呼吸器症状がある方はマスクを着用しましょう。
- ・子供たちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒しましょう。
- ・流水や石鹸による手洗い又はアルコール製剤による手指衛生を心掛けましょう。

川崎市におけるRSウイルス感染症発生状況
～平成28年と過去5年間平均の比較～



川崎市におけるRSウイルス感染症
年齢階級別発生状況(平成28年第36週)



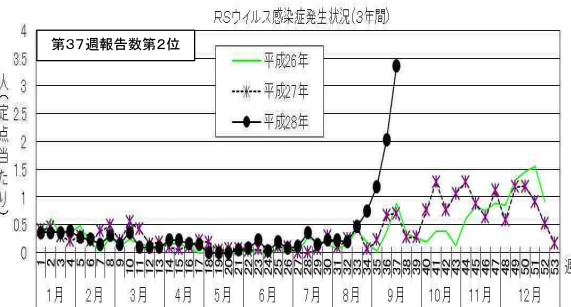
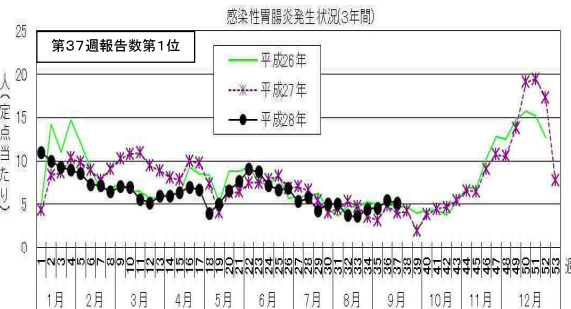
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成28年9月12日（月）～平成28年9月18日（日）【平成28年第37週】の感染症発生状況

第37週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) RSウイルス感染症 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.17人と前週（5.42人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は3.37人と前週（2.03人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.66人と前週（1.61人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



知っていますか？「結核」のコト

平成28年9月24日から9月30日までは結核予防週間です。
 結核は決して過去の病気ではありません。国内では平成27年に年間18,280人が新たに発症し、1,955人の方が亡くなっています。

川崎市においては、結核罹患率は年々減少しているものの全国平均よりやや高い状態で推移しています。

結核は、咳やくしゃみに含まれる結核菌を吸い込むことにより感染（空気感染）し、数ヶ月～数年間の潜伏期間の後、発症します。2週間以上持続する咳がみられる場合には、出来るだけ早く医療機関に相談しましょう。

結核を予防するために



結核罹患率の年次推移



～川崎市における結核の状況～

川崎市は20歳代から50歳代の患者割合が全国平均に比べて高く、働き盛り世代の患者が多いことが特徴です。咳などの症状があっても日々の忙しさから受診を後回しにしたり、定期健診の未受診や健診後に要精密検査となっても放置することにより発見が遅れ、重症化することがあるため注意が必要です。



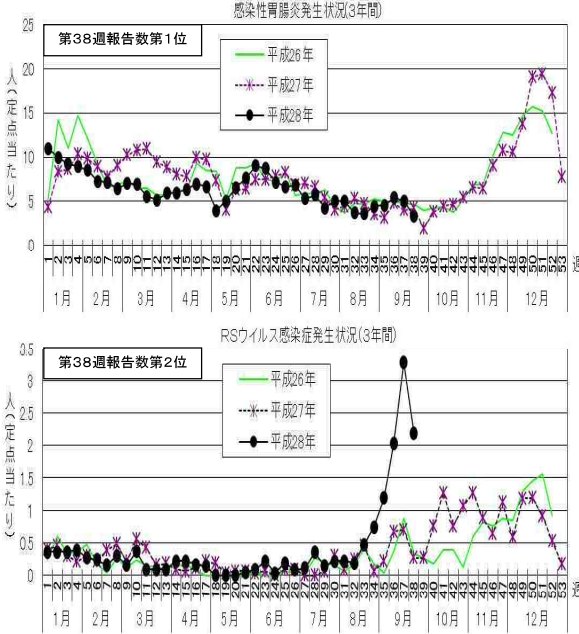
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成28年9月19日(月)～平成28年9月25日(日)〔平成28年第38週〕の感染症発生状況

第38週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) RSウイルス感染症 3) 流行性角結膜炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.31人と前週(5.06人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.19人と前週(3.28人)から減少し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.67人と前週(1.56人)からやや増加し、例年より高いレベルで推移しています。



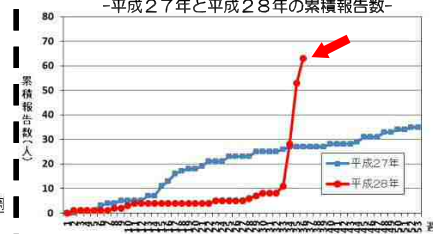
全国的に麻疹(はしか)が発生しています！！

現在、全国で複数の麻疹(はしか)患者が発生しています。
 麻疹患者に接触すると、免疫のない方の場合、約10～12日の潜伏期間を経て発熱、咳、鼻水など風邪様症状が出現します。2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現し、多くの方は、その後3～4日で解熱します。免疫のない患者では約15%に肺炎や中耳炎、約0.1%に脳炎などの合併症を併発することがあります。また、発症日の1日前から解熱後3日を経過するまでは、周囲に感染させる可能性がありますので外出を控えましょう。



なお、医療機関を受診される場合は、必ず事前に電話して
 感染の疑いを伝え、指示に従って下さい。

全国における麻疹発生状況
 ～平成27年と平成28年の累積報告数～



定期予防接種の対象年齢の方々は、期間内に接種するようにしましょう。

～定期予防接種について～
 第1期 生後12月から生後24月に至るまでの間にある者
 第2期 小学校入学前の年度1年間
 (今年度は平成22年4月2日～平成23年4月1日生まれが対象)

川崎市 KAWASAKI CITY

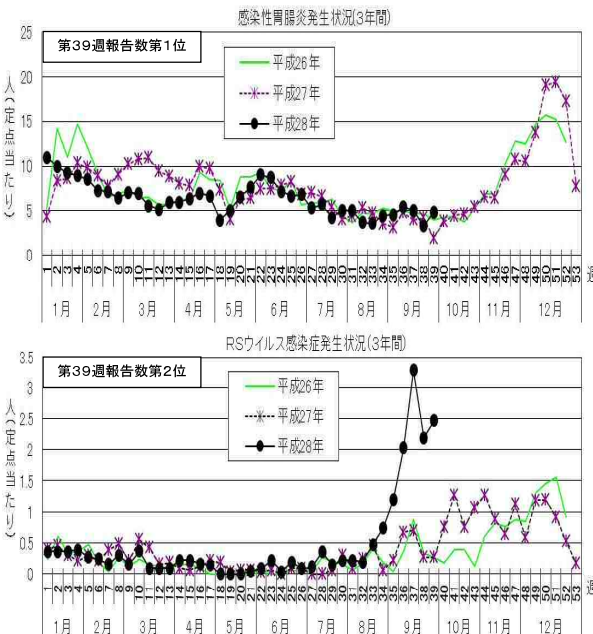
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成28年9月26日(月)～平成28年10月2日(日)〔平成28年第39週〕の感染症発生状況

第39週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) RSウイルス感染症 3) 手足口病でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.86人と前週(3.31人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.47人と前週(2.19人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 手足口病の定点当たり患者報告数は2.17人と前週(1.14人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



B型肝炎ワクチン ～10月から小児への定期接種開始～

B型肝炎は、B型肝炎ウイルスに感染している人の血液や体液を介して感染することにより起こる病気です。特に乳幼児ではウイルスを排除できずに持続感染(キャリア化)し、将来的に、肝硬変や肝がんなどの病気を引き起こすことがあります。対象者の方は必ずワクチン接種を受けましょう。

対象者
 ・平成28年4月1日以降に生まれた、1歳に至るまでの間にいる川崎市民のお子さん

接種回数(標準的な接種時期)
 ・3回(生後2か月から生後9か月に至るまでの間)

費用
 ・無料

受けられる医療機関
 ・市内の協力医療機関(187か所) ※平成28年9月12日現在
 川崎市ホームページにてご確認ください。川崎市予防接種コールセンター(電話044-330-6940)にお問い合わせください。

1回目の接種から3回目を終えるまでには、およそ半年かかります。特に、平成28年4、5月に生まれたお子さんは早めの接種がお勧めです。

接種スケジュール

- 1回目から27日以上の間隔をおいて2回目を接種します。
- 1回目から139日以上の間隔をおいて3回目を接種します。

平成28年4月生まれのお子さんの場合

2016年 10/1 11/1 12/1 2017年 1/1 2/1 3/1 4/1
 生後 6か月 7か月 8か月 9か月 10か月 11か月
 1回目 2回目 3回目

川崎市 KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成28年10月3日（月）～平成28年10月9日（日）〔平成28年第40週〕の感染症発生状況

第40週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) RSウイルス感染症でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.36人と前週（4.86人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
 手足口病の定点当たり患者報告数は2.97人と前週（2.17人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.69人と前週（2.47人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



気をつけたい感染症～マイコプラズマ肺炎～

マイコプラズマ肺炎は、咳を主症状とする呼吸器感染症で、6～12歳の学童期に多いのが特徴です。川崎市では、今のところ目立った増加はありませんが、全国的には5月以降報告数が増加傾向にあり、過去5年間と比較して平成24年に次ぐ勢いです。

マイコプラズマ肺炎について

【感染経路】 飛沫感染

【潜伏期間】 2～3週間

【症状】

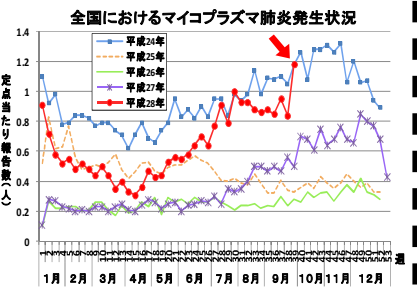
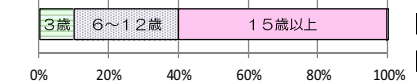
咳、発熱、全身倦怠感(だるさ)、頭痛などの症状が始まります。咳は次第に強まり、解熱後も3～4週間持続します。多くは予後良好ですが、合併症として脳炎や心筋炎等を起こすことがあります。

【治療・予防方法】

抗菌薬によって治療します。
 予防としては、**手洗い・咳エチケット**（マスク着用等）が重要です。



平成28年 川崎市におけるマイコプラズマ肺炎 年齢階級別発生状況



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成28年10月10日（月）～平成28年10月16日（日）〔平成28年第41週〕の感染症発生状況

第41週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) 流行性角結膜炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.92人と前週（5.36人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
 手足口病の定点当たり患者報告数は2.03人と前週（2.97人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.67人と前週（2.22人）から減少し、例年より高いレベルで推移しています。



インフルエンザワクチンの接種はお早めに！

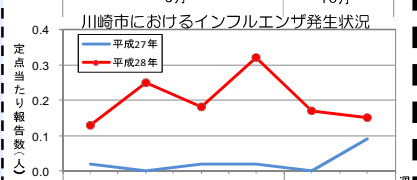
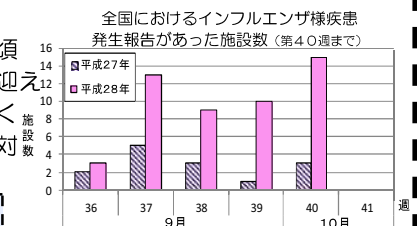
インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等の報告数が、第37週（平成28年9月12日～9月18日）以降、全国的に大幅に増加しています。

川崎市においても、第42週（10月17日）に、今シーズン初めてのインフルエンザによる学級閉鎖の報告があり、定点当たり報告数も昨年に比べ多くなっています。

インフルエンザは例年12月～3月頃流行し、1月～2月に流行のピークを迎えますが、年によっては流行の開始が早くなることもあります。予防接種などの対策は、お早めにご検討ください。

今シーズンのワクチンについて

- 2015/2016シーズンから、A型2種類、B型2種類の計4種類が含まれたワクチン（4価ワクチン）が導入されています。
- A/H1N1亜型（2009年以降の流行株）
 - A/H3N2亜型（いわゆるA香港型）
 - B型（山形系統）
 - B型（ビクトリア系統）
- ※A/H3N2亜型のワクチン株のみ昨年度と異なります。



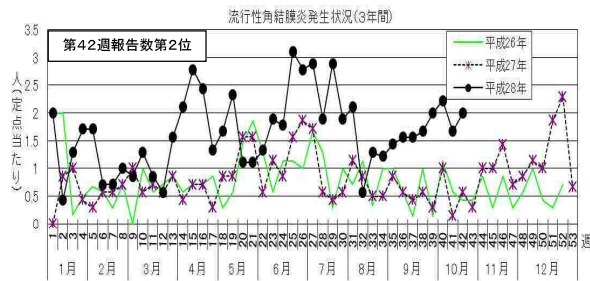
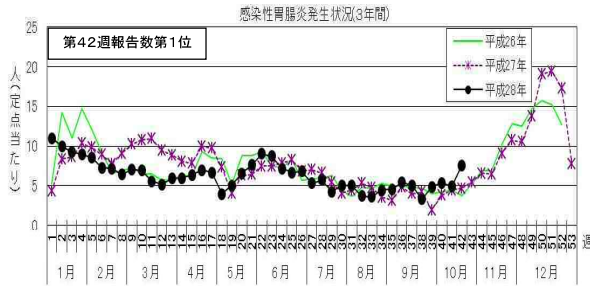
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成28年10月17日(月)～平成28年10月23日(日)〔平成28年第42週〕の感染症発生状況

第42週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・手足口病でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.56人と前週(4.92人)から増加し、例年より高いレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.00人と前週(1.67人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.97人と前週(1.33人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。手足口病の定点当たり患者報告数は1.97人と前週(2.03人)から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。



～感染性胃腸炎の拡大を防ぐために～

感染性胃腸炎は、ウイルスや細菌等を原因とする感染症です。中でもノロウイルスを原因とする胃腸炎の患者数は、毎年11月～1月にピークをむかえます。

ノロウイルスは感染力が強いため、汚物(おう吐物等)の取扱い・廃棄に注意し、適切な消毒薬(次亜塩素酸ナトリウム希釈液)を用いて、拡大防止に努めましょう。

塩素系消毒液の作り方 (市販の漂白剤 塩素濃度5%の場合)

食器等の消毒やふき取り(ドアノブ、手すり、床等)

塩素系漂白剤の原液

1L 原液 + 4mL (キャップ1杯分) 原液 + 1L 水

0.02% (200ppm) 次亜塩素酸ナトリウム 消毒液

ふんばいやおう吐物など汚物廃棄時の消毒 (袋の中で廃棄物を浸す等)

塩素系漂白剤の原液

1L 原液 + 20mL (キャップ5杯分) 原液 + 1L 水

0.1% (1000ppm) 次亜塩素酸ナトリウム 消毒液

汚物(おう吐物等)を処理する際のポイント

- ◆ 使い捨てのマスク、手袋、エプロンを着用する。
- ◆ 汚物中のウイルスが飛び散らないよう、ペーパータオル等で静かにふき取り、塩素消毒後、水ぶきする。
- ◆ ふき取った汚物や手袋などは、ビニール袋に密閉して廃棄する。
- ◆ 汚物の処理時や処理後は、換気を行う。

塩素系消毒液を作る際の注意事項

- おう吐物等の酸性のものに直接原液をかけると、有毒ガスが発生することがありますので、必ず「使用上の注意」をよく確認してから使用してください。
- 次亜塩素酸ナトリウムは使用期限内のものを使用し、希釈液は早めに使い切りましょう。
- 製品ごとに濃度が異なるので、表示をしっかりと確認しましょう。

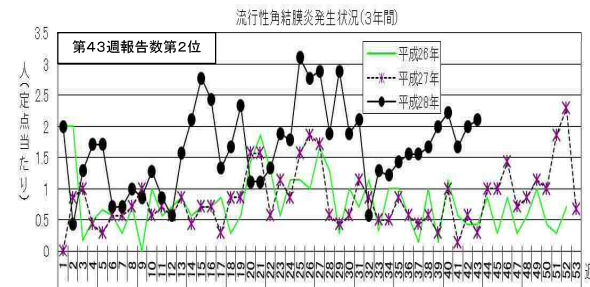
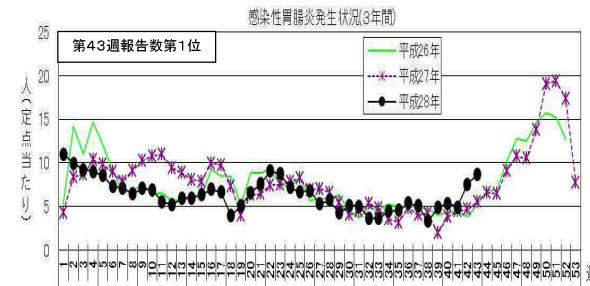
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成28年10月24日(月)～平成28年10月30日(日)〔平成28年第43週〕の感染症発生状況

第43週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.67人と前週(7.56人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.11人と前週(2.00人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.92人と前週(1.97人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



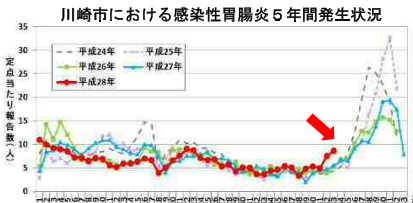
～感染性胃腸炎が増えました！～

感染性胃腸炎は、例年11月以降に増加がみられます。川崎市でも10月中旬より患者報告数が増えており、第43週(平成28年10月24日～10月30日)の定点当たり報告数は8.67人と2週連続で増加しました。特に川崎区(定点当たり報告数17.60人)からの報告が多くなっています。

主な感染経路は経口感染です。ウイルスや細菌等に汚染された食品や、患者の便・嘔吐物から人の手を介して感染します。感染経路を断つような予防対策が重要です。

予防対策

- 手洗いの徹底
- タオルやふきんは清潔なものに交換
- 貝類や肉類は中心部まで十分加熱
- 肉類や魚介類等は低温で保存
- 調理器具は使用後、洗って熱湯消毒
- 嘔吐物や便は、次亜塩素酸ナトリウムを利用し、適切に処理



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

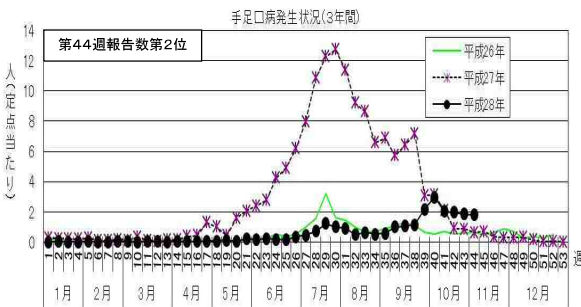
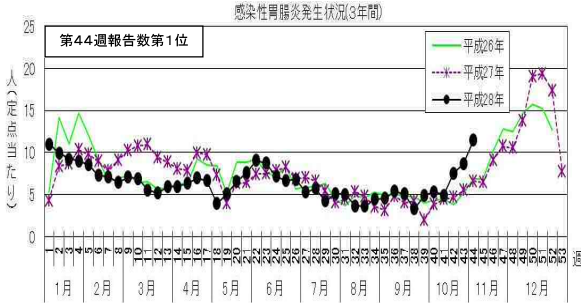
平成28年10月31日(月)～平成28年11月6日(日)【平成28年第44週】の感染症発生状況

第44週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) 流行性耳下腺炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は11.47人と前週(8.67人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

手足口病の定点当たり患者報告数は1.81人と前週(1.86人)から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

流行性耳下腺炎の定点当たり患者報告数は1.44人と前週(1.89人)から減少し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



～腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう！！～

腸管出血性大腸菌感染症は、病原性大腸菌(血清型 O157、O26など)に感染することにより、腹痛や下痢などの症状を呈する感染症です。
今年の10月中旬以降、腸管出血性大腸菌 O157に汚染された冷凍メンチカツを原因とする広域食中毒が発生しています。基本的な食中毒の予防対策を徹底することで、感染を防ぎましょう。

腸管出血性大腸菌感染症とは？

- **感染経路**
菌に汚染された飲食物の摂取や患者の糞便に含まれる菌が直接または間接的にヒトの体内に入ることによって感染
※わずか2～9菌の菌だけでも感染することがあります。
- **潜伏期間**
2～14日(平均3～5日)
- **主な症状**
激しい腹痛、頻回の水様性下痢、著しい血便
- **合併症**
溶血性尿毒症症候群(HUS)、脳症
※子どもや高齢者は合併症を起こしやすいといわれています。

激しい腹痛や血便がある場合には、直ちに医療機関を受診しましょう！！



《予防対策について》

食品は中心部まで75℃1分間以上加熱

食品を扱う前や食事の前には手洗いを徹底

生肉・魚に使用した調理器具は、調理のたびに洗浄・消毒

川崎市 KAWASAKI CITY
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

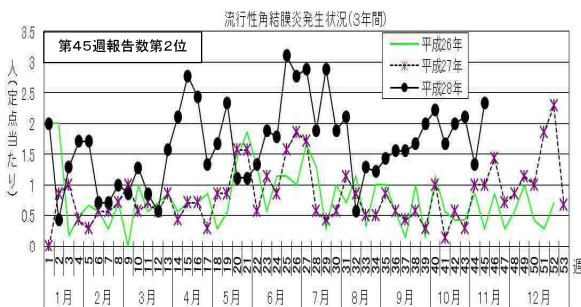
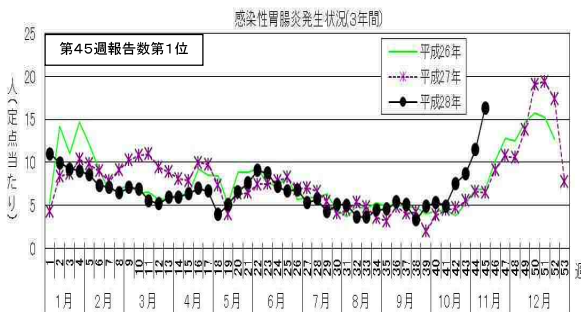
平成28年11月7日(月)～平成28年11月13日(日)【平成28年第45週】の感染症発生状況

第45週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は16.36人と前週(11.47人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.33人と前週(1.33人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.67人と前週(1.33人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

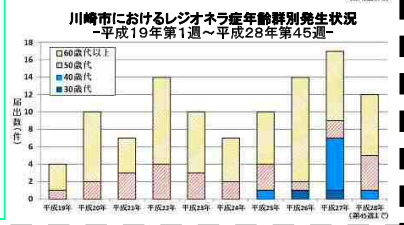
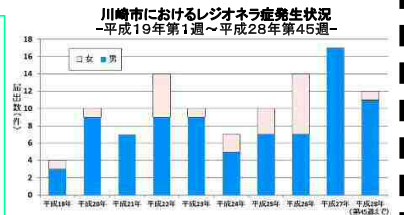


～知っていますか？レジオネラ症～

レジオネラ症はレジオネラ属菌による感染症で、肺炎を引き起こすレジオネラ肺炎と、肺炎にならない自然治癒型(ボンティアック熱)の2つの病型があります。
川崎市における届出数は、平成20年以降年間7～17件で推移しており、男性が多くを占めています。以前の報告ではほとんどが50歳以上でしたが、平成25年以降は30歳代～40歳代の報告もみられるようになってきました。

レジオネラ症とは？

- **感染経路**
レジオネラ属菌に汚染されたエアロソール(空気中に浮遊している粒子)を吸入することによって感染
※ヒトからヒトへうつることはありません。
- **潜伏期間**
レジオネラ肺炎：2～10日
ボンティアック熱：1～2日
- **主な症状**
レジオネラ肺炎
肺炎、発熱、咳、呼吸困難、下痢、意識障害
※進行が早く、医療機関への受診や治療が遅れると死亡することもあります。
ボンティアック熱
突然の発熱、インフルエンザ様症状
- **予防対策**
エアロソールの発生する高压洗浄や粉塵が出る腐葉土の取扱い等の際にはマスクを着用しましょう。



川崎市 KAWASAKI CITY
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250